

薬局・薬剤師の機能発揮と評価の現状

－社会医療診療行為別統計より－

医療制度検討委員会

2021年8月

社会医療診療行為別統計とは

医療保険制度における医療の給付の受給者に係る診療行為の内容、調剤行為の内容、薬剤の使用状況等を明らかにし、医療保険行政に必要な基礎資料を得ることを目的として、**毎年、前年の6月審査分の状況が公表されます。**

統計表では診療行為（医科・歯科）・調剤行為の状況、薬剤の使用状況の結果を回数・点数別等で提供される。

URL : <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450048&tstat=000001029602>



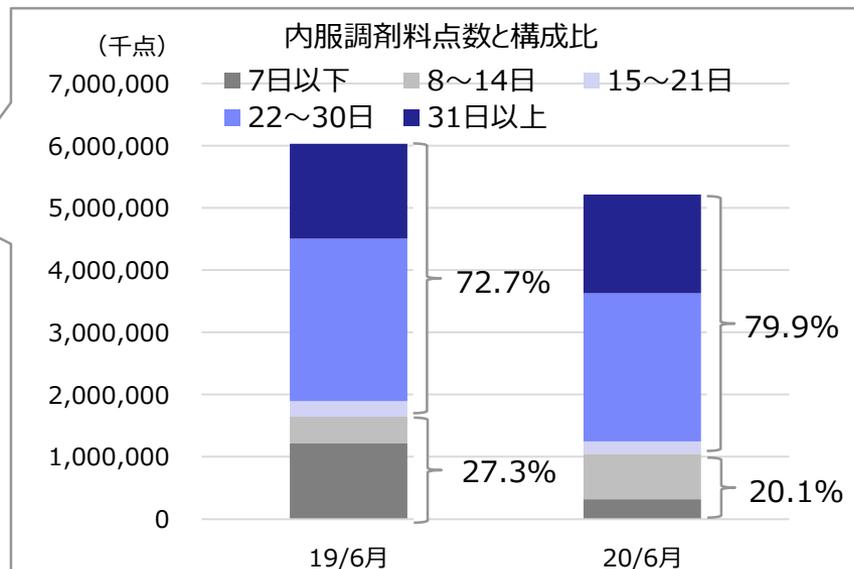
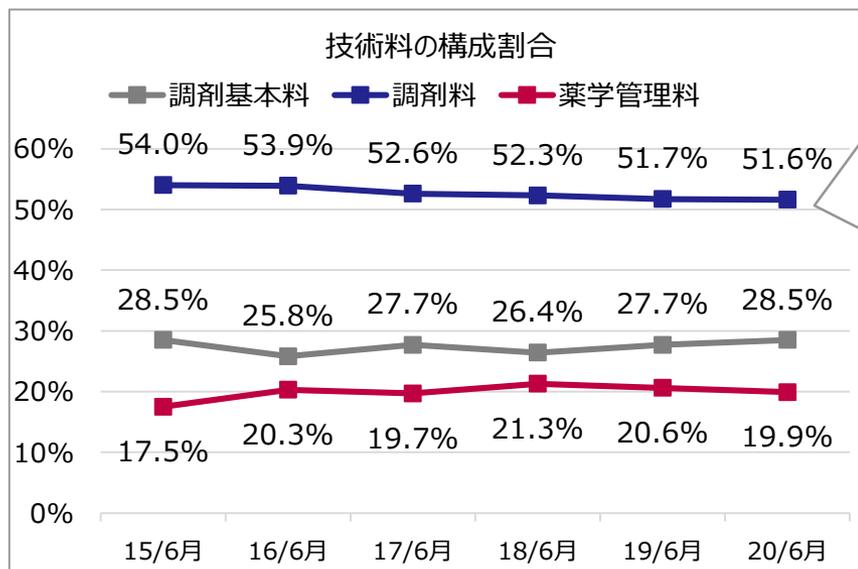
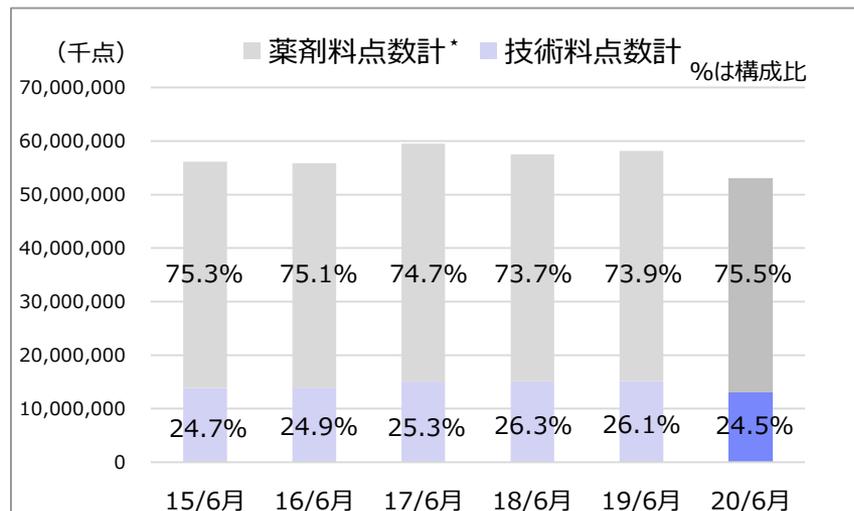
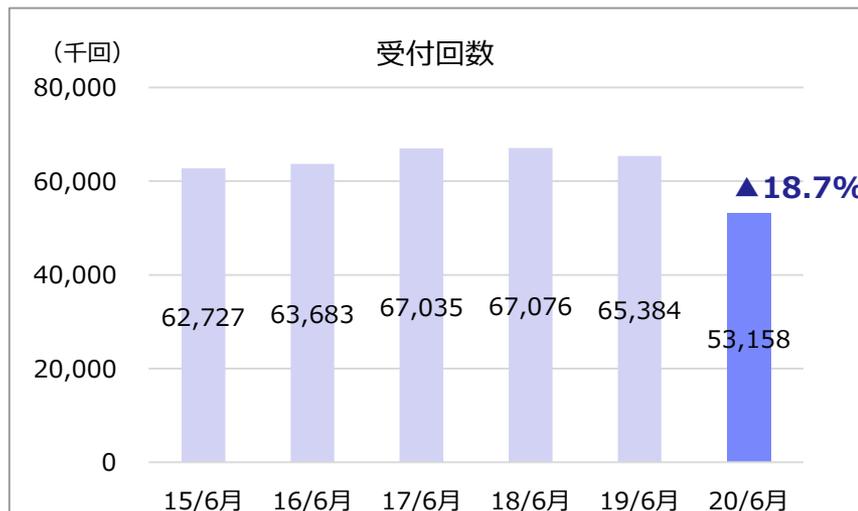
1. 調剤全体の状況

2. 薬学管理料・加算の算定状況

3. 調剤基本料・加算の算定状況

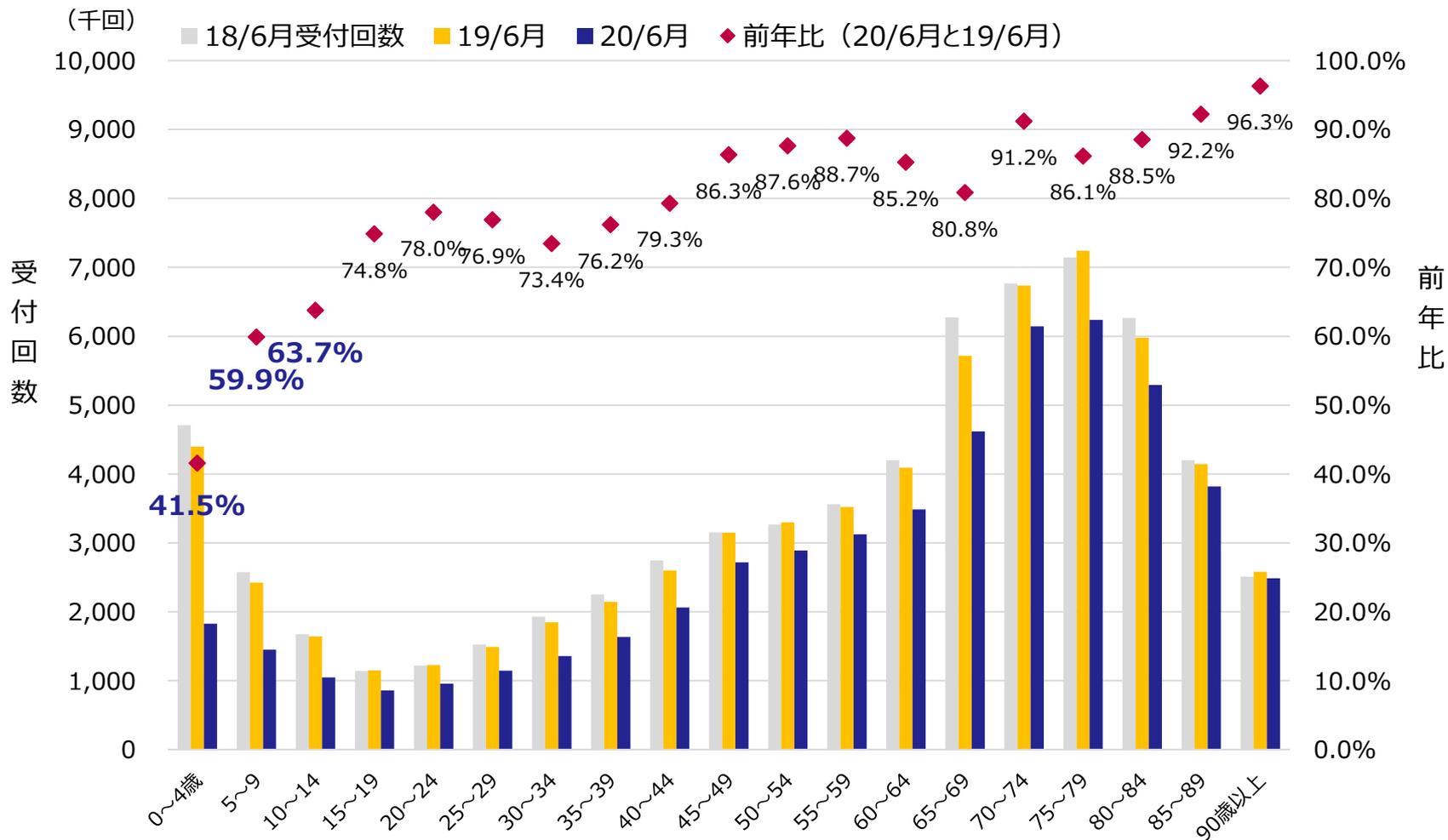
調剤全体

新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けて、受付回数、調剤報酬額の減少、処方長期化の傾向が見られる。



年齢別受付回数

全年代において、前年比で受付回数が減少しているが、特に0～4歳、5～9歳、10～14歳の順で影響が見られる。

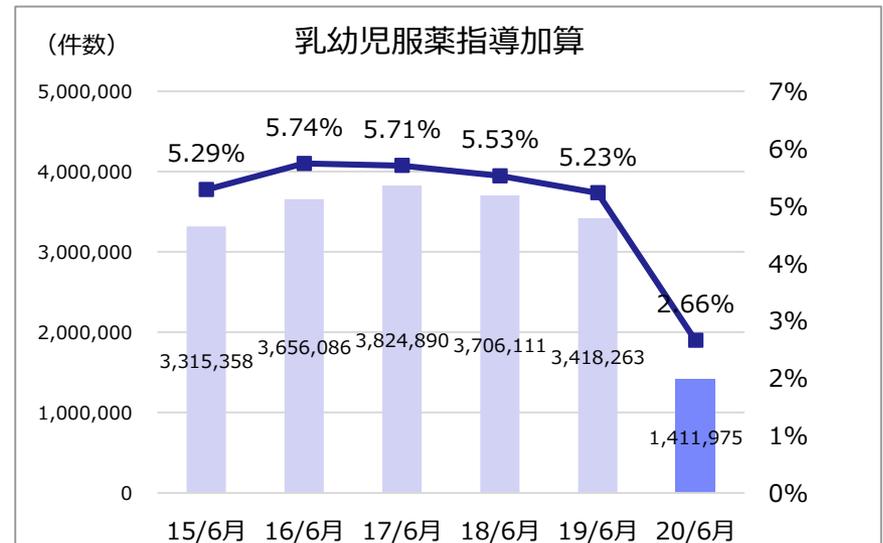
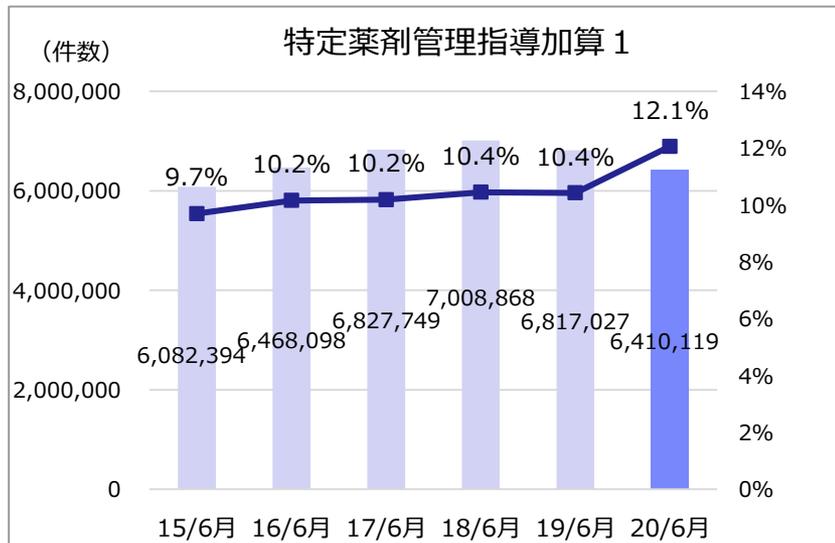
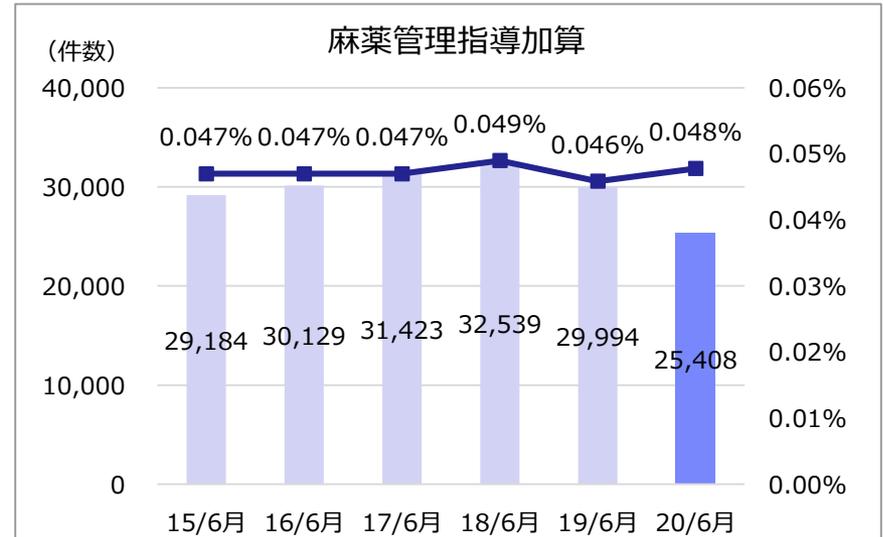
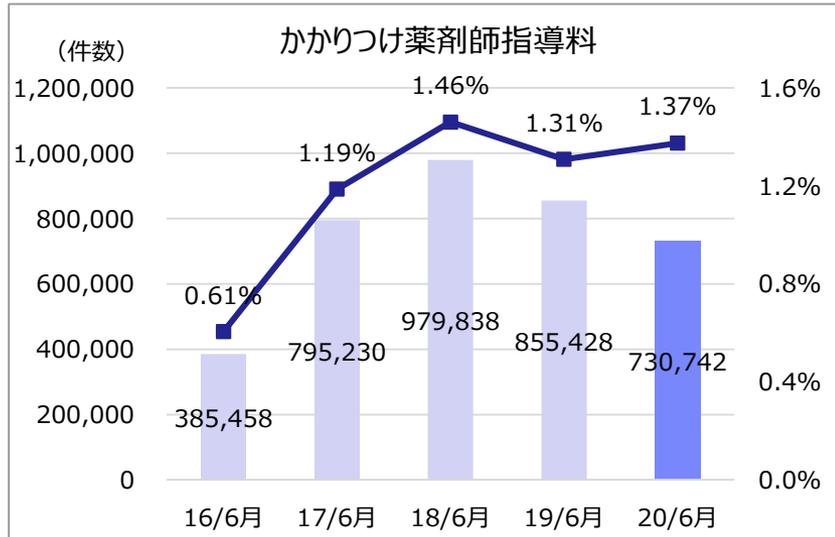


- 
1. 調剤全体の状況
 - 2. 薬学管理料・加算の算定状況**
 3. 調剤基本料・加算の算定状況

薬学管理料・加算の算定状況 1

■ 算定件数 ■ 算定率

かかりつけ薬剤師指導料、麻薬管理指導加算の算定率は横ばいであるが、乳幼児に対する処方が大きく減少したことで、乳幼児服薬指導加算の算定件数と、全体に対する算定率も大幅な減少が見られた。

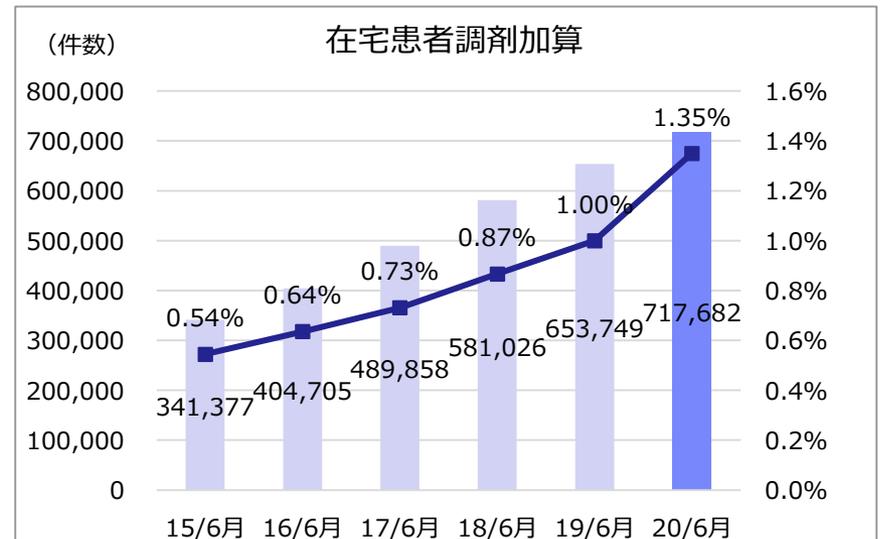
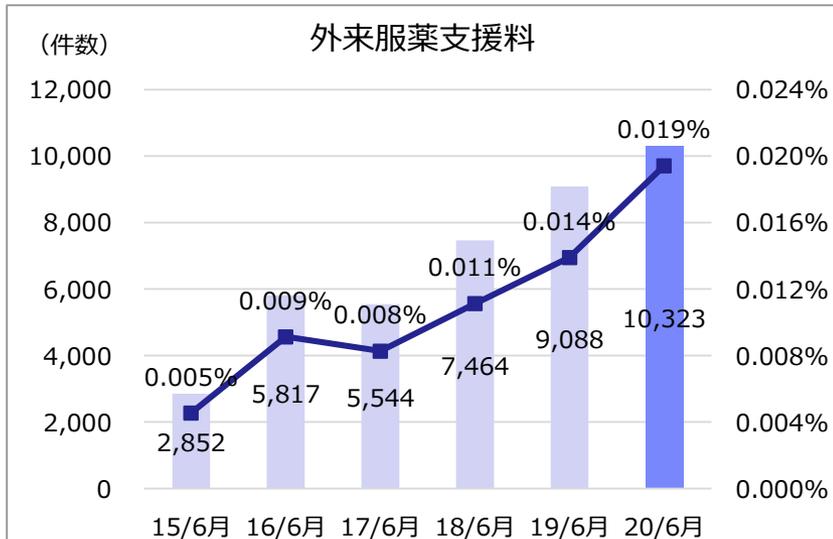
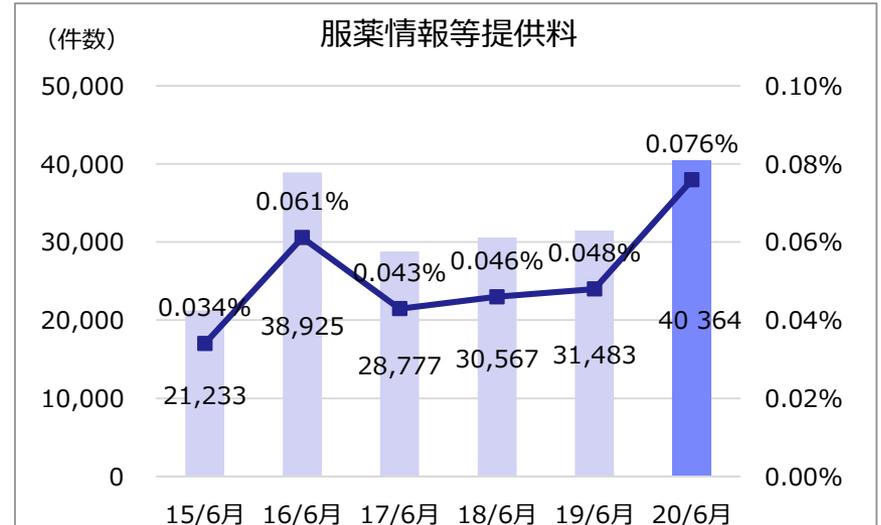
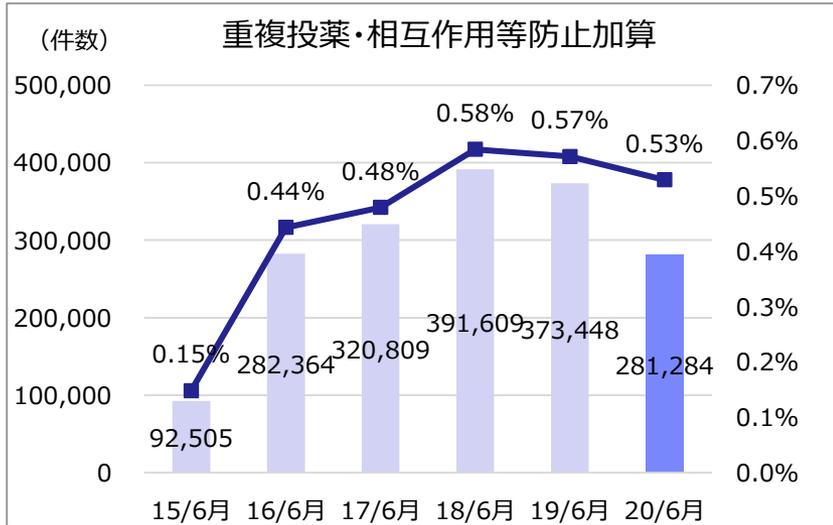


▶ 社会医療診療行為別統計より 算定率は算定件数を受付回数で除して算出

薬学管理料・加算の算定状況 2

■ 算定件数 ■ 算定率

医療機関への情報提供、服薬支援、在宅対応の実績は、これまでの推移と比べて大きな伸び率が見られた。



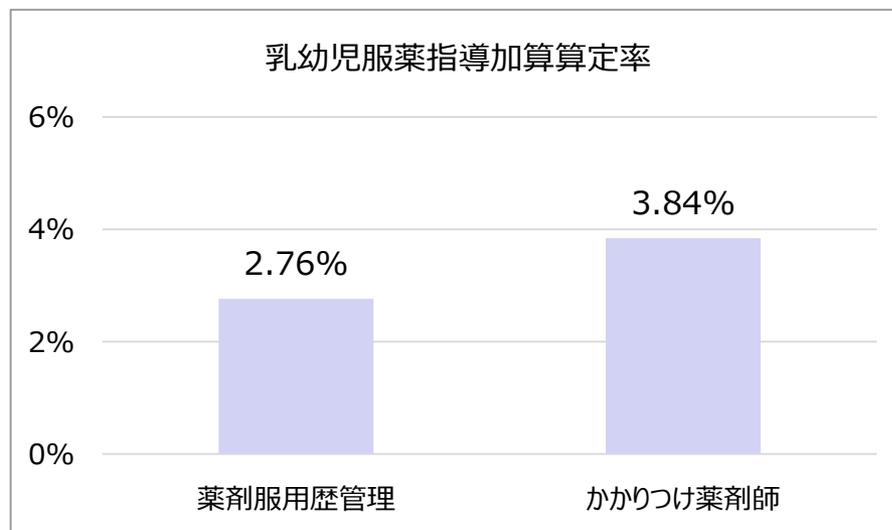
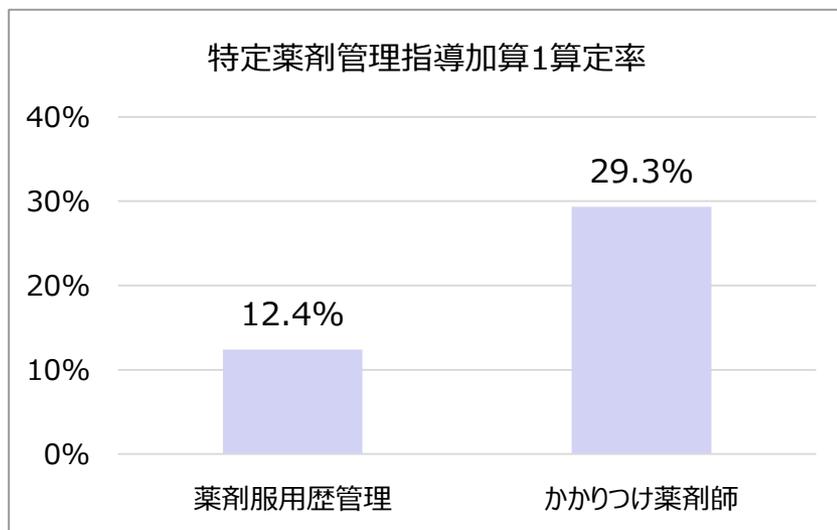
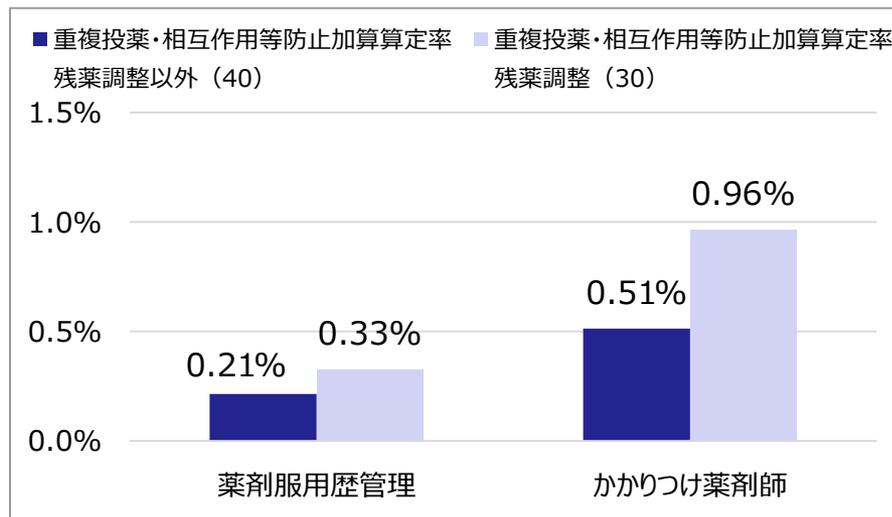
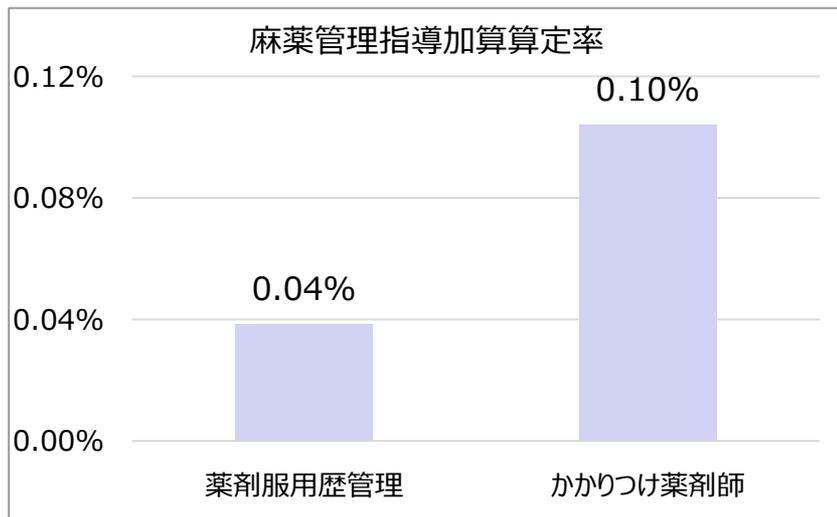
▶ 社会医療診療行為別統計より 算定率は算定件数を受付回数で除して算出

▶ 服薬情報等提供料：長期投薬情報提供料含む

かかりつけ機能発揮 – 2020年6月 –

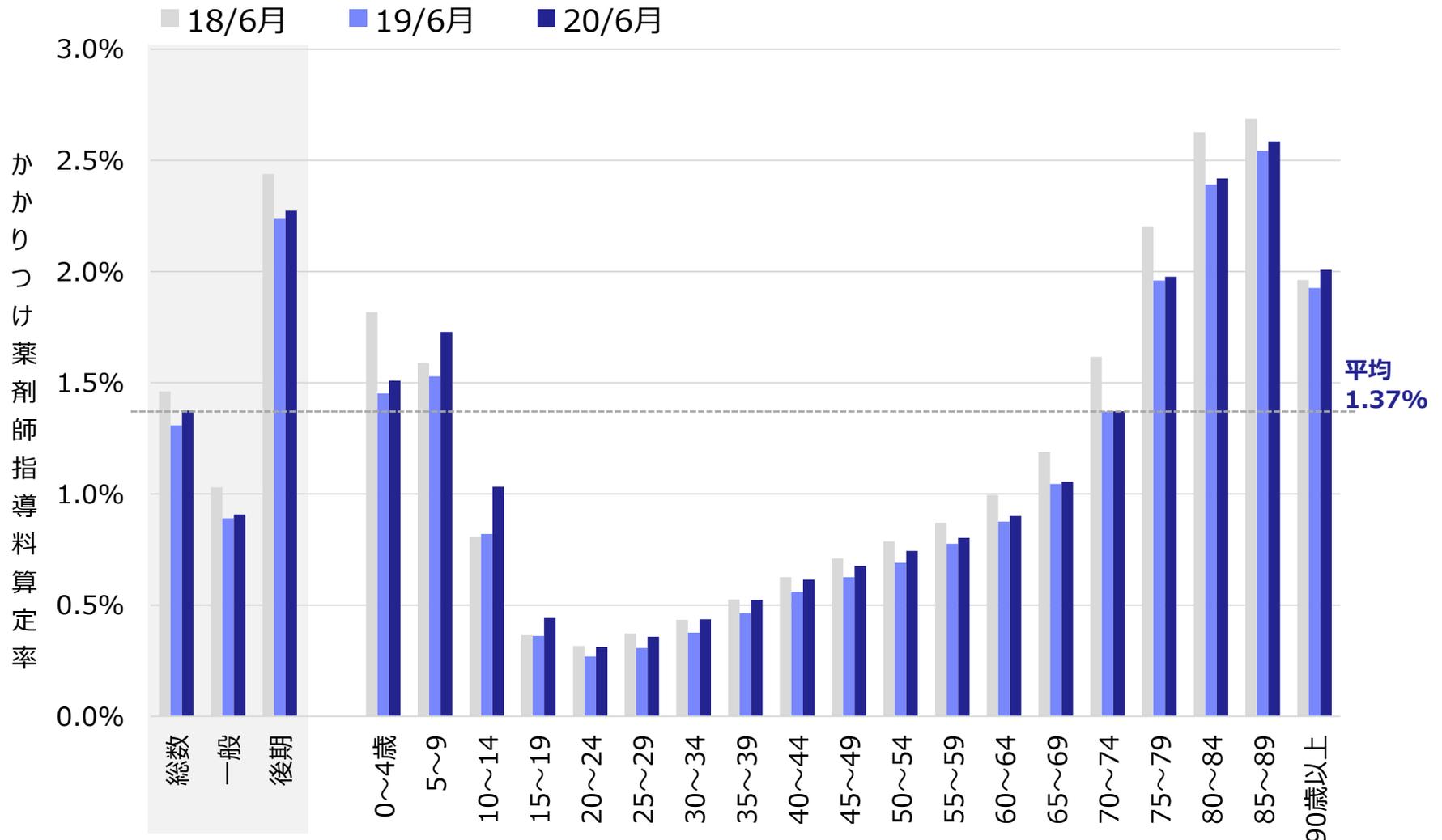
■ 算定率

重複投薬・相互作用等防止加算をはじめ、かかりつけ薬剤師指導料を算定している場合の方が、そうでない場合と比べて、加算の算定率が高い傾向が見られた。



年齢別かかりつけ算定率

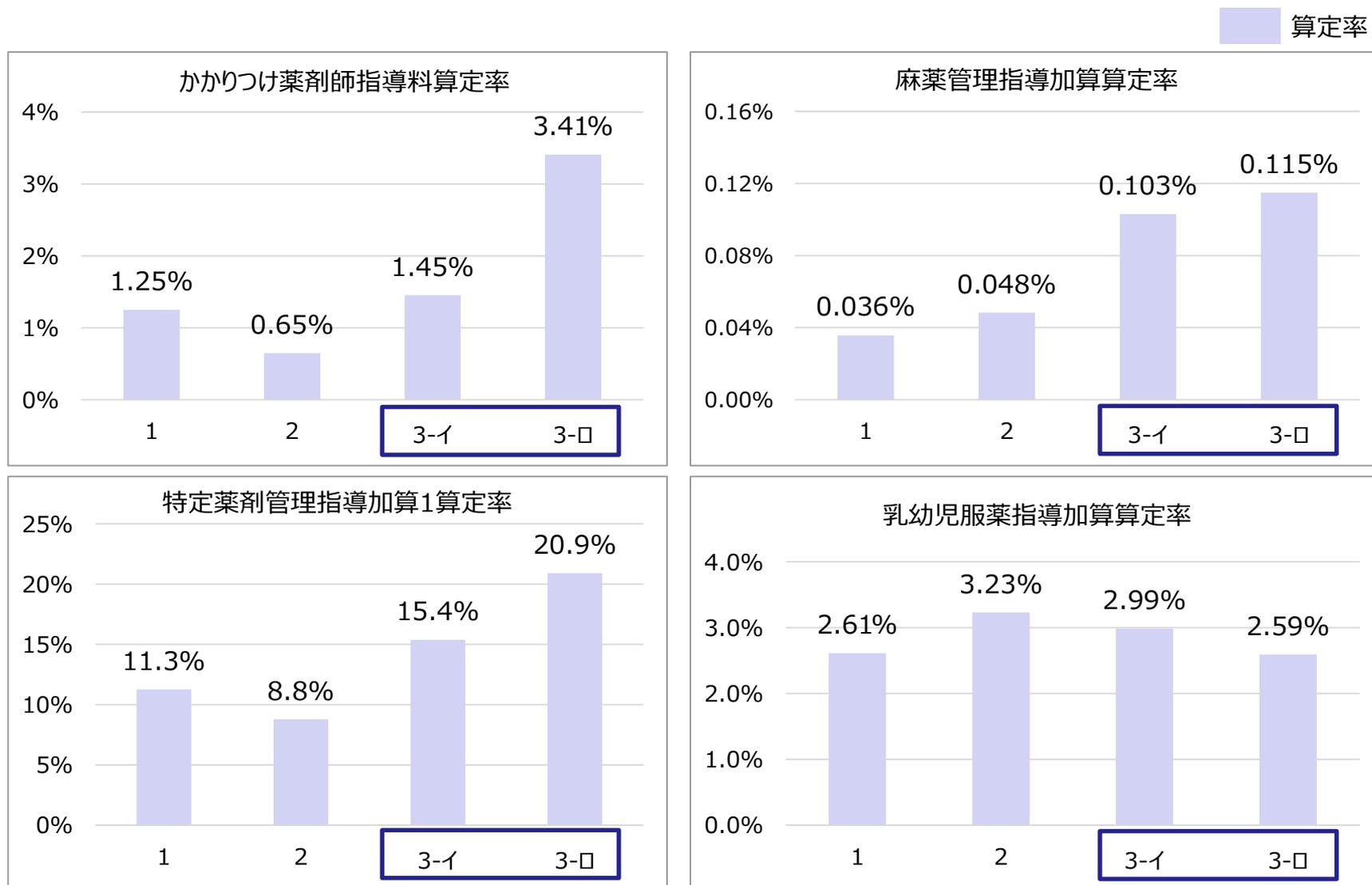
0～4歳、5～9歳の乳幼児、小児、75歳以上の高齢者においては、平均より、かかりつけ薬剤師指導料の算定率が高い傾向が見られた。



社会医療診療行為別統計より 算定率は算定件数を受付回数で除して算出

調剤基本料別 算定実績 1 - 2020年6月 -

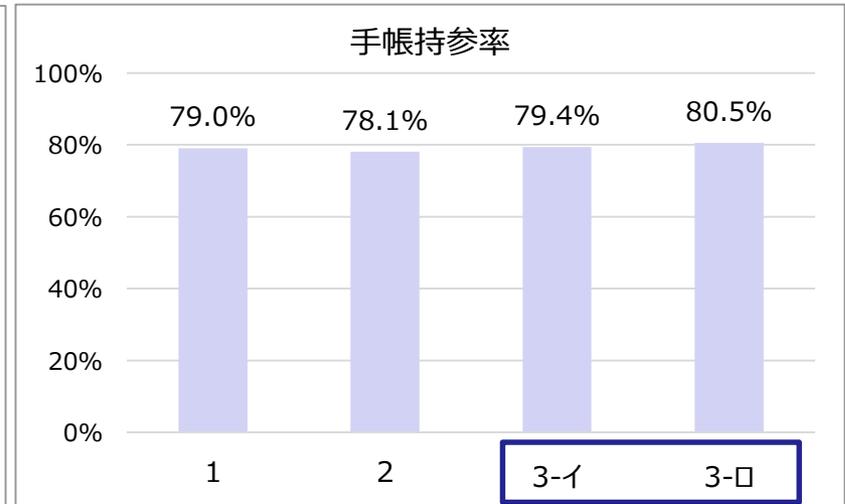
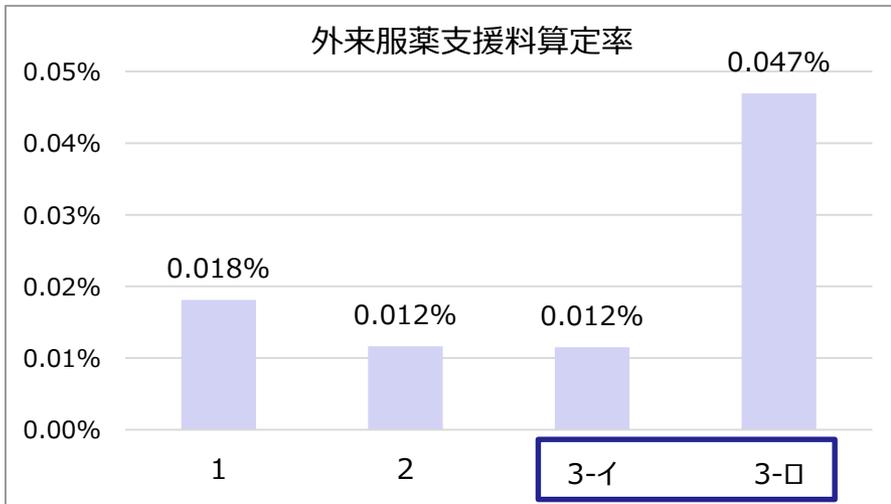
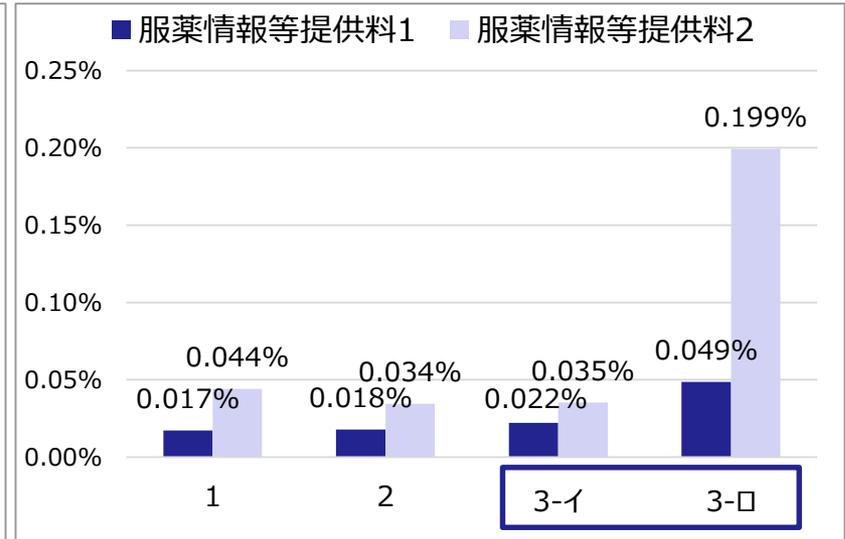
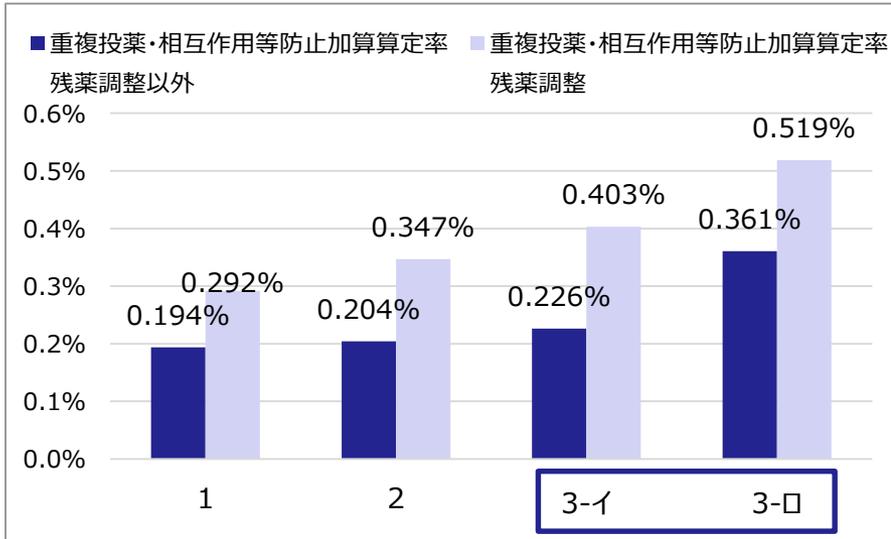
調剤基本料別に、各種薬学管理料・加算の算定状況を比較すると、調剤基本料3の薬局の方が高い算定率であった。乳幼児服薬指導加算については、その算定状況に差は見られなかった。



調剤基本料別 算定実績 2 - 2020年6月 -

■ 算定率

調剤基本料 3 の薬局の方が高い算定率であったが、服薬情報等提供料 2 と外来服薬支援料の算定率に関しては、調剤基本料 3-ロの薬局において、特に高い傾向が見られた。

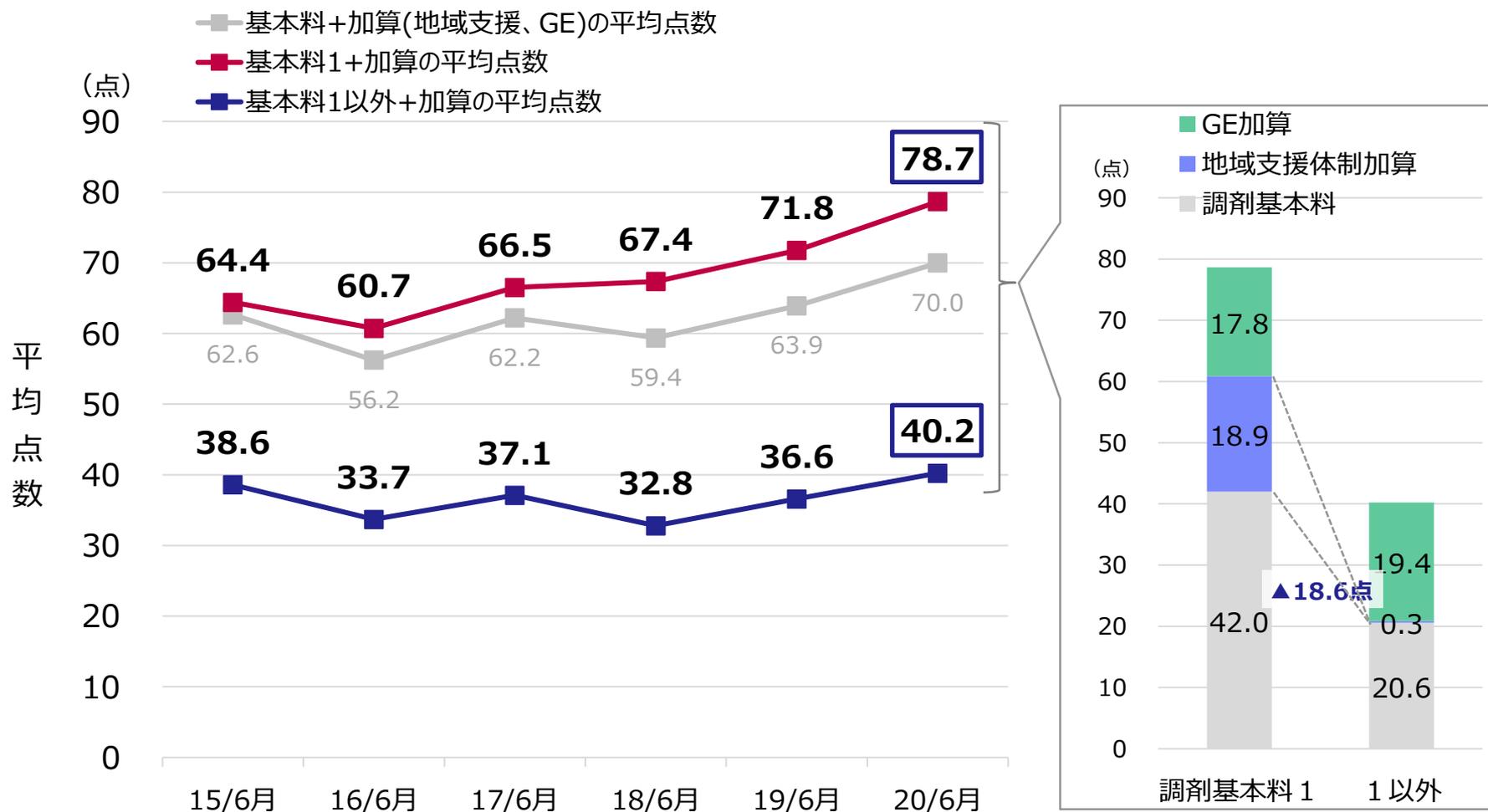


社会医療診療行為別統計より 算定率は算定件数を受付回数で除して算出
 持参率は、薬剤服用歴管理指導料（3月以内再度処方箋持参 手帳あり）/同指導料（3月以内再度処方箋持参）より算出

- 
1. 調剤全体の状況
 2. 薬学管理料・加算の算定状況
 - 3. 調剤基本料・加算の算定状況**

調剤基本料別 平均点数

調剤基本料別に加算を含めた平均点数を比較すると、薬局機能を評価している地域支援体制加算において、18.6点の差が見られた。



社会医療診療行為別統計より 各算定点数を調剤基本料算定回数で除して算出 15/6月～17/6月は基準調剤加算

まとめ

- 新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けて、全年代において、前年比で受付回数が減少しているが、特に乳幼児、小児において、大幅な減少が見られた。一方でこのような状況下でも医療機関への情報提供、服薬支援、在宅対応の実績は、これまでの推移と比べて大きな伸び率が見られた。
- かかりつけに関しては、算定率が1%台で横ばいである状況に変わりなく、その普及に課題があるものの、乳幼児、小児、高齢者において算定実績が高く、また、かかりつけ薬剤師指導料を算定している場合の方が、各種加算の算定率が高く、より質の高いサービス提供の状況が伺えた。
- 調剤基本料別に各種薬学管理料の算定状況を比較すると、調剤基本料1以外の薬局の方が高い算定率となっている項目もある、一方で、薬局機能を評価している地域支援体制加算の平均点数において、18.6点の差が見られた。



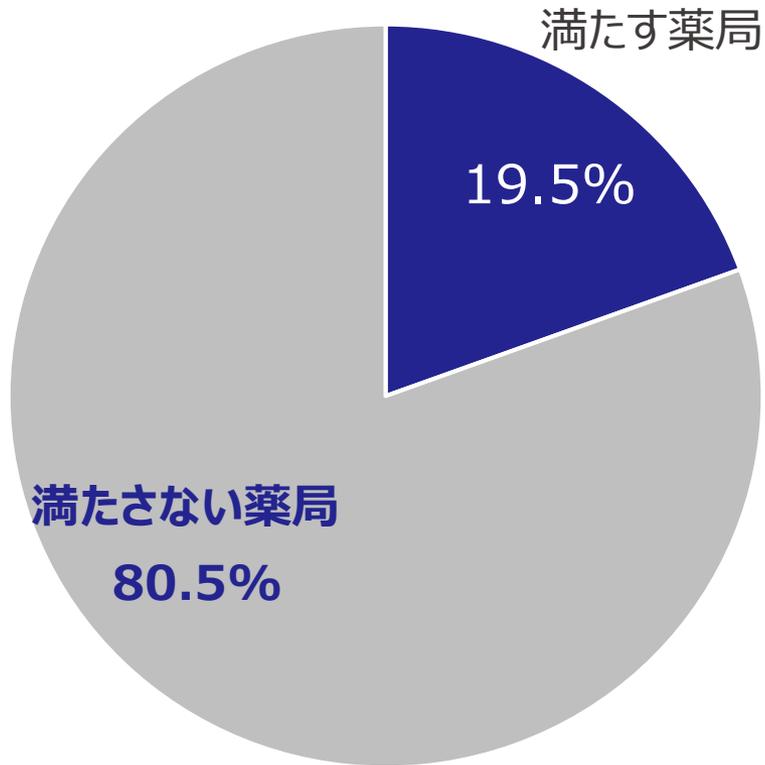
- かかりつけ機能、医療機関等との情報連携、在宅医療への対応等、薬局が果たしている機能に基づき、公正に評価されるべきである。現行の要件で言えば、少なくとも「夜間・休日の対応実績」及び「麻薬の実績」に関して、地域ごとの医療環境に左右されるため算定要件とするのは適さないと考える。
- かかりつけ機能を発揮することが、患者の薬物治療の質向上に寄与すると示されており、患者や地域医療のニーズを踏まえ、薬局におけるさらなる推進と、かかりつけ薬剤師・薬局制度見直しが必要である。

Appendix

地域支援体制加算 – 夜間・休日・麻薬 –

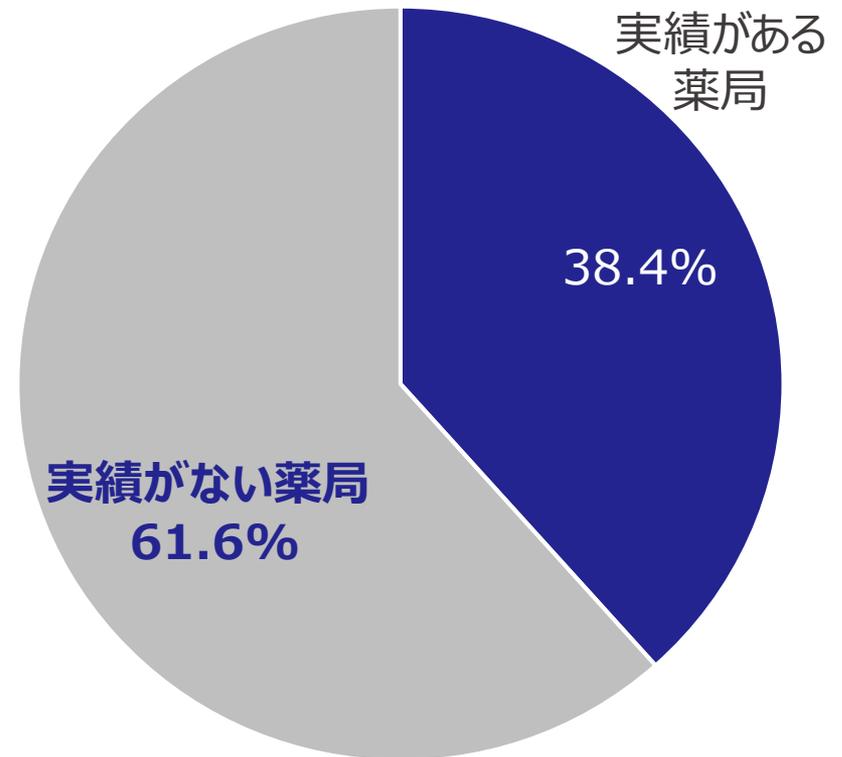
「夜間・休日の対応実績」と「麻薬の実績」は、地域ごとの医療環境に左右されるため、要件を満たす薬局は限定的である。

1年間に常勤薬剤師1人当たり「夜間・休日等
対応実績400回」を満たす薬局
(N=5,903薬局)



▶ 2019年3月NPhA医療制度検討委員会 WEB調査

麻薬加算の算定実績がある薬局
(N=7,333薬局)

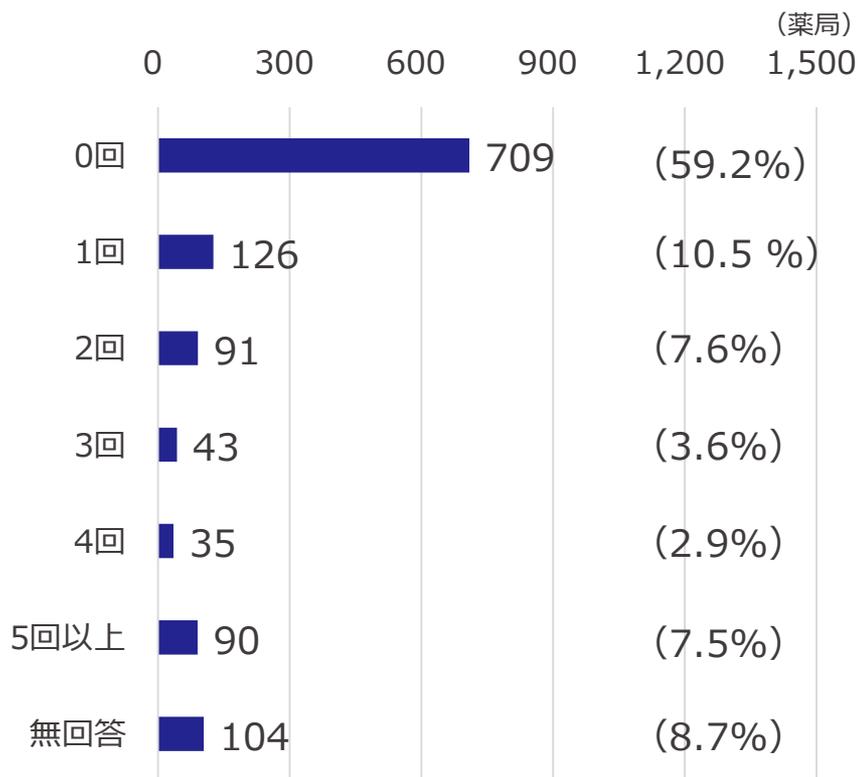


▶ 2020年11月NPhA医療制度検討委員会WEB調査より、20/9月実績

地域支援体制加算 – 麻薬 –

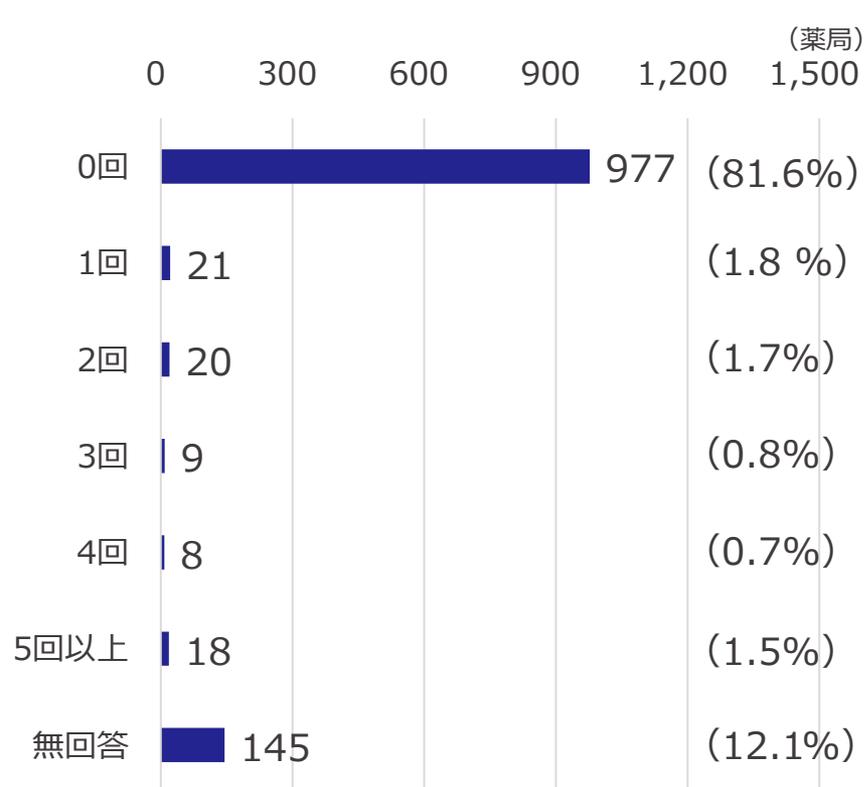
令和2年度の薬剤師の需給動向把握事業における調査でも、**約6割の薬局は、麻薬調剤の実績がない**という結果が示されている。

外来患者への麻薬の調剤回数



N=1,198

在宅患者への麻薬の調剤回数



N=1,198

▶ 令和2年度 薬剤師の需給動向把握事業における調査結果概要より抜粋

NPhA・全国比較

NPhA加盟薬局では、全国平均と比べて、各種薬学管理料・加算において、高い算定実績が見られる。

既存の技術料項目	NPhA (20/9月実績) N=1,034万回	全国 (20/6月実績) N=5,315万回	算定率差
かかりつけ薬剤師指導料 (算定率)	203,120件 (2.14%)	730,742件 (1.37%)	0.77%
重複投薬・相互作用等防止加算 (算定率)	72,186件 (0.76%)	281,284件 (0.53%)	0.23%
服薬情報等提供料 (算定率)	28,476件 (0.28%)	40,364件 (0.076%)	0.204%
外来服薬支援料 (算定率)	2,761件 (0.029%)	10,323件 (0.019%)	0.010%
服用薬剤調整支援料 1	169件	402件	—

2020年度改定 新設項目

服用薬剤調整支援料 2	231件	703件	—
調剤後薬剤管理指導加算	167件	286件	—
特定薬剤管理指導加算 2	558件	368件	—
吸入薬指導加算	10,722件	46,635件	—
経管投薬支援料	34件	161件	—

▶ NPhAの数値：20201210調剤報酬における届出・実績調査報告書より2020年9月実績を参照
 全国の数値：社会医療診療行為別統計データの2020年6月実績を参照



Nippon Pharmacy Association

日本保険薬局協会